

英語

●出題の意図

受験生諸君が標準的な高等学校英語を習得しているか確認することを目的とします。具体的には語彙・文法・読解に関して、教科書に準拠した基礎的な学力を有しているか判断することを意図しています。語彙については口語特有の表現も含まれます。文法は基本的な事項を正しく理解しているかを見ます。読解については語の意味を文脈に即して理解し、文章全体の内容を読み解く力を身に付けていることを重視します。英語に対するこうした基本的な力を見極めていきます。

●傾向と対策 英語の基礎力と読解力を身につけよう

大きく5つのパートで構成されており、文法・語法の空所補充、会話文完成、短文の空所補充、長文読解、語句整序など、英語の基礎力を幅広く確認する内容となっています。前半では文法や語法の基本的な理解が問われるため、教科書レベルの知識を確実に身につけておくことが大切です。会話文問題では、前後の発言の流れを読み取り、自然な応答となる選択肢を選ぶ力が求められます。長文読解では、段落ごとの内容を正確に把握し、設問で何が問われているのかを意識しながら読むことが重要です。設問を先に確認してから本文を読む練習をしておく、効率よく解答できるでしょう。日頃から語彙や文法を確認し、英文に触れる機会を増やしておきましょう。

国語

●出題の意図

大学で学ぶためには文章を正確に読解することが必要となります。そしてそのためには、基本的なことばの知識も必要となります。そこで国語の試験では、主に現代の論説文や随筆を素材として、そこに書かれている内容を正確に理解できているかどうか、そこで使われている語句の意味を知っているかどうか、といった点をたずねる問いを出題します。それらの力を養うためには、普段の国語の勉強のほか、読書がとて有効な方法なので、受験生諸君には読書の習慣を身につけることをお勧めします。

●傾向と対策 漢字・語彙力と読解力をバランスよく鍛えよう

読解問題を中心に、漢字の読み書きや四字熟語・ことわざなどの語彙力を問う問題で構成されています。漢字・語彙問題は大学入試頻出の基本的な内容が中心で、きちんと対策をしていけば確実に得点できる分野です。ここでの失点は致命的になりかねないため、早めの対策を心がけましょう。差がつくのは読解問題で、傍線部や空欄の前後をおさえれば解ける問題から、問題文全体を正確に読み取る必要がある問題まで幅があります。まずは標準的な問題で確実に得点できることをめざし、日々の演習を通じて文章を読み取る力を鍛えていきましょう。制限時間内で解く練習も行い、本番に備えることが大切です。

数学

●出題の意図

高等学校の学習指導要領に沿った数学Ⅰ・数学Ⅱの基礎的な知識・技能が定着しているかを確認し、さらにそれらを応用して論理的に問題を解決する力を測ることを意図しています。問題は、数学Ⅰ・数学Ⅱの単元からの大問4問で構成されます。各大問は、標準的な教科書の基礎～練習問題レベルの知識で解答可能な、関連し合う小問によって組み立てられています。教科書レベルの理解を深く問うことで、本質的な数学の力を測定します。特に、基礎知識をいかに活用できるかという、解答に至る思考プロセスを重視しています。

●傾向と対策 基礎計算力と解答を活用して解く問題の対応力を磨こう

数学Ⅰ・Ⅱの全範囲から偏りなく出題されており、因数分解・二次関数・三角比と図形・確率・データの分析といった各分野から大問が構成されています。全問マークセンス方式で、各大問は前半に基本的な計算問題、後半にやや応用的な問題が配置される構成です。前半で導いた解答を使って後半の問題を解く際には、前半でのミスが後半にも影響します。まずは教科書レベルの基本問題を確実に解ける力をつけ、計算ミスを防ぐことが最優先です。その上で、前半の結果を活用して後半の問題に対応する練習を過去問題で重ねましょう。特定の分野を不得意なまま残さず、早い時期から全範囲をバランスよく学習しておくことが大切です。

日本史

●出題の意図

日本史の試験では、古代・中世・近世・近現代までの全時代を対象にしつつ、特に近現代にやや重点を置いて出題します。出題の目的は、複数の高等学校教科書を参考にしながら、受験者が基本的な理解を身につけているかを確認することです。具体的には、(1)各時代の大まかな流れを把握しているか、(2)教科書に掲載される代表的な史料の意味を理解しているか、(3)各時代における日本と外国との関わりを理解しているか、の三点を重視します。さらに、各時代の経済・社会・文化に関する基礎知識についても確認し、歴史を多角的に理解しているかを問います。

●傾向と対策 基本用語の定着と歴史の流れを把握しよう

すべてマークセンス方式で、リード文の空欄補充問題と、下線部に関する用語・文選択問題を中心に構成されています。出題テーマは時代・地域を問わず幅広いですが、問われる用語は概ね教科書の太字レベルが中心です。差がつきやすいのは文選択問題で、用語の暗記だけでなく、歴史的な意義や事件の背景・結果・影響まで理解しておく必要があります。まずは一問一答問題集などで重要用語を整理し、教科書本文を熟読して出来事の因果関係や同時代の関連をおさえましょう。不得意な時代・地域を洗い出して優先的に補強することが得点力の向上につながります。

世界史

●出題の意図

出題の分野については、政治史をはじめ、経済・文化・社会史から、地域については、ヨーロッパ・アメリカなどの欧米地域、中国・インド・イスラームのアジア地域など、いずれもできるだけ偏りのないよう作問しています。時代についても、古代、中世、近世、近現代とバランスの良い問題作成を心がけています。教科書・用語集をもとに基礎的な知識を問う問題を中心に作問していますので、これらをしっかり読み込み、歴史を大きな流れの中で体系的に理解しながら学習することが必要です。

●傾向と対策 基礎的な用語知識を定着させて得点力を伸ばそう

すべてマークセンス方式で、空欄補充問題・用語選択問題・文章の正誤問題で構成されています。出題範囲は古代から近代まで幅広く、政治史を軸に外交史・文化史なども含まれますが、求められる知識は教科書の太字レベルが中心です。本年は文章の正誤問題が大幅に増加し、紛らわしい人物名や地名の識別を求める問題も複数見られました。単に用語を丸暗記するだけでなく、出来事の背景や因果関係、人物が活躍した時代などをセットで理解しておくことが必要不可欠です。まずは教科書を丁寧に読み込んで重要用語をインプットし、一問一答の問題集や過去問題でアウトプットでの確認を行いながら、知識を体系的に定着させていきましょう。